

電話のおしり

「ただいまー。」

学校から帰ってきたまさえは、いきおいよくランドセルを放り投げ、リビングにあるテレビの前にすわりました。今日は、大好きなアニメ番組の放送があるのです。さっそくテレビをつけて見ていました。

しばらくして、リビングにある電話が鳴りました。

「だれよ、もう。面白い場面なのに。」

とぶつぶつ言いながら、まさえは受話器を取りました。電話の相手は、友達のゆうこでした。安心したまさえは、

「なあんだ、ゆうこか。何の用？」

と言って、テレビを見ながら話すことにしました。

「グループで点字について調べる宿題があるでしょ。四時半に旭公園で待ち合わせようと思うんだけど、まさえさん来られる？」

「うん……。」

「よかったー。まさえさんには、ノートとボールペンを持ってきてもらいたいんだけど、たのめるかなあ。」

「……ふーん……。」

「ねえ、ちょっと聞ってる？まさえさん。」

ゆうこは、おこったように言いました。まさえはテレビに夢中でしたが、ゆうこのおこった声でテレビの音が聞こえませんでした。まさえはムツとして、「四時半に、ノートとボールペンを持って旭公園に行けばいいんですよ。じゃあね！」

と言い放ち、電話を切ってしまいました。電話を切ると、番組は終わりに近づいていました。大好きなアニメなのに、今日はなんだか楽しくありませんでした。

「こっちはテレビを見ていたのに、じゃまをされたわ。」

と、まさえはぶつぶつ言いながら出かける用意を始めました。

すると、また電話のベルが鳴りました。まさえがめんどくさそうに電話に出ると、おばあさんの友達のふきさんからでした。

「おばあちゃん、ふきさんから電話だよ。」

と言って、まさえは、おくの部屋にいるおばあさんを呼びました。おばあさんは、いつもは大きく曲がっているこしを、少しのばしたようなしせいで電話のところまで来ました。そして、まさえに、

「ありがとうね。」

と言ってから電話に出ました。おばあさんは、

「お待ちせしてすみませんでしたね。」

と言いながら、電話に向かって深々とおじぎをしていました。そして、

「心配してくれてありがとうね。こしは、だいぶよくなってきたのよ。」

と言いながら、おばあさんは、また電話に向かっておじぎを、今度は二回していました。(どうしておばあちゃんは、相手が目の前にいないのに、おじぎをしているのだろう)と不思議に思いながら、げんかんでくつをはいて出かけました。

旭公園に向かう間、まさえは、電話に向かっておじぎをしていたおばあさんのことを考えていました。そして、旭公園が見えそうになったとき、まさえは、はっとしました。

公園に着くと、すでにゆうこさんが来ていました。まさえはゆうこさんにかけてよって、電話のことをあやまりました。

(鯉江周子)

*本資料の著作権は放棄していません。授業で使用するために複写することを除き、その他の無断転載、複製、翻訳を禁じます。